

平成二十九年 青年教学3級・初級試験 練習問題

佐渡御書

()の中に入る語句を答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

「1」背景と大意

- (1) 佐渡御書は、(①) 年 月 日、日蓮大聖人が五十一歳の時、流罪地の佐渡・塚原から、広く(②) ()に向けて与えられた御書です。
- (2) ご執筆の前月に北条一族が相争あいあそう(③) ()が起き、その知らせを受けて著されたのが本抄です。
- (3) 佐渡御書ご執筆の前月に送られた(④) ()抄を踏まえて、(⑤) ()の心で悪と戦う者が必ず仏になることを示され、宿命転換の法理を通して門下を励まされています。
- (4) 本抄の末尾には次のように仰せです。「一人ももるれば恨うらみ ありぬべし此文このふみ を(⑥) ()あらん人人は寄合よりあて御覧じ料簡候りようけんそうらい て心なぐさませ給へ」断じて一人も(⑦) ()させてはならないとの氣迫が感じられる御文です。

「2」本文について

- (5) 「(①) ()の心は弱きをおどし(②) ()をおそる当世の学者等は(③) ()の如し智者の弱きをあなづり(④) ()をおそる諛臣ゆしんと申すは是これなり(⑤) ()を伏ふくして始はじめて力士をしる」
- (6) 「(⑥)の心」とは、相手が(⑦)とみれば脅し、(⑧)者にはこびへつらう卑しい心です。

- (7) 右の御文について説明した次の各文が、正しければ【】に○を、間違っていれば×を書きなさい。
- A. 諸宗の僧らが大聖人を迫害するのは、正邪を基準としているからである。【】
- B. 諸宗の僧らは、大聖人の社会的立場が弱いゆえに、迫害を加える。【】
- C. 諸宗の僧らは、王法の権力が強いことを恐れていないので、大聖人に迫害を加える。【】

- (8) 「(⑨) ()の正法を破るに(⑩) ()が方人をなして智者を失はん時は(⑪) ()の如くなる心をもてる者必ず仏になるべし例せば(⑫) ()が如し」

(9)

先の御文に関して、語句の対応関係に注意して、後ろの語群から適する語を選んで、次の表を完成しなさい。

結託		御文の言葉	特徴	人物名	どのような心か
(13)	(13)	邪法の僧等	権力	(14)	/
(18)	(15)	正法を護る実践	(16)	日蓮大聖人	
(19)	(17)	(19)	(17)	(19)	(19)の心

《語群》

A 畜生

B 平左衛門尉等

C 智者

D 師子王

E 極楽寺良観等

F 悪王

G 宗教的権威

H 学者等

(10)

佐渡流罪の背景には、大聖人との祈雨に敗れた(20) ()が讒言(ざんげん)によって権力者を動かした経緯があります。そして実際に大聖人の捕縛(ほぼく)に動いたのが(21) ()です。

そうした悪の結託の時に、何ものをも恐れない「(22) ()の如くなる心」をもって、正法を守る者が、成仏の境涯を得ることができると、大聖人は断言されています。

(11)

末法における仏道修行とは、(23) ()が充滿する社会にあつて、たとえただ一人であつても、(24) ()の覚悟で法華経の正義を叫び抜く実践を貫き通すことにほかなりません。その正法を護り抜く不措(ふしやく)の実践こそが、(25) ()という時に適った最高の修行なので、必ず仏になることができます。「例せば日蓮が如し」と、それは御自身のことにはかならないと宣言されています。

(12)

「これおごれるにはあらず正法を(26) ()心の強盛(かうじしよう)なるべしおごれる者は強敵に値(あひ)て(27) ()心出来(こころしゆつたい)するなり例せば(28) ()のおごり帝釈(たいしやく)にせめられて無熱池(むねつち)の蓮(はちす)の中に小身と成て隠れしが如し、正法は一字一句なれども(29) ()に叶いぬれば必ず得道なるべし千経万論を習学すれども(同前) ()に相違すれば叶う可(べか)らず」

(13)

修羅は、普段は、自分の力に慢心を持ち傲(おご)り高ぶっていても、自分より強い帝釈に責められる時は、池の蓮(はす)の中に小さくなって隠れてしまいます。傲りの心は(30) ()界であり、正法を惜しむ心は(31) ()の生命です。いかなる迫害にあつても、威風堂々と嵐に立ち向かった、大聖人の身軽法重(しんきやうほうじゆう)の姿こそ、師子王の姿そのものなので

(14)

佐渡流罪により弾圧は一門にもおよび、多くの弟子たちが退転してしまう中で、本抄で、師子王の姿を示された大聖人は、門下へ、師匠の後に続くように教えられます。

また、(32) ()

こそが悪世末法における(33) ()に適った仏道修行であり、今

この時に、大聖人と同じ「師子王の心」で戦う一門の人々は、間違いなく成仏の大道を歩
んでいることを力強く指導されているのです。

佐渡御書 解答

「1」背景と大意

- ① 文永九年三月二十日
- ② 門下一同
- ③ 二月騒動
- ④ 開目
- ⑤ 師子王
- ⑥ 心ざし
- ⑦ 退転

「2」本文について

- (5) ① 畜生ごうてき ② 強き ③ 畜生 ④ 王法の邪よこしま
- (6) ⑤ 強敵 ⑥ 畜生 ⑦ 弱い ⑧ 強い
- (7) A・× B・○ C・×
- (8) ⑨ 悪王 ⑩ 邪法の僧等 ⑪ 師子王 ⑫ 日蓮
- (9) ⑬ 悪王 ⑭ 平左衛門尉等 ⑮ 宗教的権威 ⑯ 極楽寺良観等
- (10) ⑰ 畜生 ⑱ 智者 ⑲ 師子王
- (11) ⑳ 極楽寺良観 ㉑ 平左衛門尉 ㉒ 師子王
- (12) ㉓ 謗法 ㉔ 不惜身命 ㉕ 末法
- (13) ㉖ 惜む ㉗ おそるる ㉘ 修羅 ㉙ 時機じき
- (14) ㉚ 修羅 ㉛ 菩薩
- ⑳ 折伏 ㉜ 時